

鹿児島の動物46

毒へび

動物担当 池 俊人

県内の陸地にすむへびの中には、7種もの毒へびがいることをご存知でしょうか。海にいるウミへびまで含めると、実に10種以上もの毒へびが県内にいます。今回は、私たちが注意をしないといけない、ヒトに重大な被害を与える陸生の毒へびについて紹介します。

県本土と周辺の島にいる毒へび

(1) ニホンマムシ

毒へびとしてよく知られているへびです。全長は約60cmと小さく太短い体形で、銭形模様があるのが特徴です。



ニホンマムシ

(2) ヤマカガシ

2017年7月に、兵庫県の小学生がヤマカガシに咬まれて意識不明の重体になりました。幸い生命に別状はありませんでしたが、この報道でヤマカガシが毒へびであることを初めて知った方も多かったと思います。



ヤマカガシの子供

地域によって体色に違いがありますが、鹿児島県では黒色と赤色の模様が目立つ個体が多いようです。

奄美群島にいる毒へび

(3) ハブ

奄美群島にすみ、全長2m以上にもなる大型のへびです。毒性・攻撃性がともに高く、非常に危険なへびなので、注意が必要です。



ハブの頭部

(4) トカラハブ

吐噶喇列島の宝島と小宝島だけにすむ、全長1m以下の小型のへびです。白色の個体が多いのですが、一定の割合で黒色の個体もいます。毒が弱いので、死亡例はこれまで出ていません。



トカラハブ

(5) ヒメハブ

奄美群島の水辺に多い全長1m以下の小型のへびで、主にカエル類を食べます。毒が弱いので、死亡例はこれまで出ていません。



ヒメハブ (撮影：岡野智和)

(6) その他

奄美群島の水辺でよく見られるガラスヒバアも毒へびです。



奄美大島などにはヒャンや徳之島などにはハイは、ともにコブラ科なので猛毒があります。しかし、口が小さくておとなしい性質なので、ヒトに危害を与えることはまずありません。ただし、毒はとても強いので、見かけても手を出さないようにしましょう。



ヒャン (撮影：岡野智和)

もし、これらの毒へびを見かけたら、静かにその場から離れるようにしましょう。正確な知識をもつことで、すべてのへびをむやみに恐れることもなくなり、被害を防ぐことができるでしょう。